

心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会（第 25 期・第 1 回）  
議事要旨

日時：2021 年 1 月 18 日（月）10:00～11:40

場所：Zoom によるオンライン会議

出席：松井三枝 内富庸介 柏野牧夫 小林祥泰 佐々木淳 鈴木伸一 積山薫 丹野義彦 村井俊哉 山口真美（敬称略）

欠席：秋下雅弘 三村將（敬称略）

審議事項

（1）委員の紹介

分科会メンバーの紹介が行われた

（2）役員の選出

委員長に鈴木委員、副委員長に丹野委員、幹事に松井委員と佐々木委員が選出され、承認された。

（3）24 期までの活動概要の報告

丹野副委員長より、①②について説明があった。

- ① 分科会の設置趣旨：2005年にさかのぼる。国民の心身の健康の保持増進とそれに寄与する制度の在り方、心理学の貢献について検討して提言を發出し続けてきた。日本心理学会や健康医療関連学協会、厚生労働省などの関連部局との連携をとり、参考人の招致や年2、3回で計10回程度のシンポジウムを開催してきた。
- ② 提言等：心理学教育プログラム検討分科会・心理学分野の参照基準検討分科会と連携をとりながら、提言等の活動を行ってきた。

（4）25 期の活動について

鈴木委員長より①②について説明があった。

①想定される取り組み課題

- 1) 健康医療分野において公認心理師が果たすべき役割の明確化
- 2) 精神医療に加えて、一般医療における公認心理師の活動促進のための基盤づくり
- 3) 公認心理師が行う業務に関連した臨床研究の促進とエビデンスの構築
- 4) 公認心理師業務に関する診療報酬の拡充のためのロードマップづくり
- 5) 健康医療関連研究の担い手としての心理学高等教育のあり方とキャリアパス

②想定される活動

- 1) 医療関連学会等との連携
- 2) 行政および各種医療・福祉系審議会等へのアプローチ
- 3) 医療分野における現場実習、および公認心理師の卒後研修の在り方の検討
- 4) 大学院教育における心理学研究者養成の在り方の検討
- 5) 提言の取りまとめ
- 6) その他

この説明をもとに、委員間の意見交換を行なった。

診療報酬の現状の不十分さや施設設置基準への公認心理師の認知度の必要性、現場の心理師が研究にも従事できる環境整備の必要性、基礎系や情報系が臨床につながることの必要性、精神科領域以外の診療科への広がり的重要性、がん医療

の発展を参考にするとエビデンスを積み上げることにより臨床の底上げがなされてきており、国内外へのエビデンスの発信の重要性、医療の進歩に伴う心理学の役割の増強の認識の必要性、卒後研修体制の整備やエビデンスを出していける心理師の養成（博士課程の充実）の必要性など、さまざまな意見がだされた。

（５）幹事会からの連絡について

松井委員が幹事会からの連絡について説明をし、それについてこの分科会の回答が承認された。

（６）その他

今後の分科会は年 2 回程度の頻度で行うことと了承された。なお、関連分科会と共同開催も視野に入れ、広がりのある会にしてゆくこととした。

第25期の3年間の大よそのスケジュールは以下のようにすることと了承された。

1年目は、健康医療と心理学にかかわる既存の枠組みにとらわれない、さまざまな領域からの情報を網羅・収集し、今後の検討課題の整理を行なう

2年目は、健康医療関連諸学会との連携や関連省庁との意見交換をおこなう  
(必要なら参考人を招致等も検討)

3年目に提言をまとめる

このロードマップを踏まえ、各委員が次回の分科会までに、各自が関連する学会や活動領域等でヒアリングを行い、健康医療における心理学および公認心理師の貢献についての現状と課題、将来展望などについて、整理してくることとなった。